



2015 (平成 27) 年 2 月 20 日 (金) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: <http://www.ecesj.com/>

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田乾一, 事務局長 小川鶴蔵)

1	はじめに	1
2	ホームページをリニューアルしました	2
3	2015 年度 海外学会等への派遣員の募集	2
4	応用生態工学会 第 19 回郡山大会開催案内	8
5	行事開催案内	
	第 7 回応用生態工学会フィールドシンポジウム in 熊本	9
6	理事会、幹事会報告	13
7	年間行事予定	17
8	事務局より	20

1 はじめに

ホームページをリニューアルしました。かねてより学会ホームページに対して改善に関するご意見をいただいておりますが、これらのご意見も参考にして 1 月 21 日より新しい画面に移行しました。不具合などを発見された方は、どうかご指摘ください。出来るところから順次対応します。今後は海外学会との連携も視野に、一部機能についての英語化も検討することになっています。

この 67 号では、2015 年度海外学会派遣員の募集を案内しています。例年より 1 ヶ月早く、3 月 31 日締め切りになっていますのでご注意ください。このほか、変更した募集要領では助成総額を 20 万円に増額したほか、派遣後の報告を簡素化するなど、応募条件を変更しています。

第 19 回郡山大会の日程が決まりました。9 月 10 日～13 日の日程確保をお願いします。

記事はこのほか、6 月開催のフィールドシンポジウム in 熊本、理事会、幹事会の動きを掲載しています。

2 ホームページをリニューアルしました

情報サービス委員会委員長 沖津二郎

かねてより会員の皆様から学会ホームページについて様々な意見をいただいておりますが、これらを参考に、昨年来、ホームページのリニューアル作業を行ってまいりました。このたび、一応の完成を見て、平成 26 年 1 月 21 日に提供を再開しました。

現段階では、会員の皆様のご要望に対応できていない部分もあり、今後、改良を継続します。会員の皆様からご指摘いただきました内容についても、順次対応する予定です。

ホームページは会員自身が育てる情報共有ツールです。会員の皆様のご参加をよろしくお願いします。

応用生態工学会ホームページアドレス <http://www.ecesj.com/index.html>

3 2015 年度 海外学会等への派遣員の募集

国際交流委員会委員長 吉村千洋

2015 年度の海外学会等への派遣員を募集します。国際交流委員会では本制度を広く活用していただくため、募集要領の改定を行いましたので、多くの応募を期待しています。以下の募集要領をご覧ください。

昨年度からの主な変更点は以下のとおりです。

- ・派遣後の必要要件である「関連した研究や技術開発に関する論文の投稿」を“推奨”とする。
- ・海外派遣の助成を合計 20 万円に増額する。
- ・若手研究者がネットワークを広げられるような国際学会を国際交流委員会から提示する。
- ・本学会での受賞歴を評価項目に追加する。
- ・公募の時期を 1 ヶ月ほど早める（3 月公募、4 月選考）。
- ・派遣報告については従来からのニュースレターへの投稿掲載に加えて、会誌“応用生態工学”へ「トピックス」（3 ページ程度）として掲載する。

2015 年度海外学会等への派遣者の募集

国際交流委員会

応用生態工学会・国際交流委員会（委員長：吉村千洋）では、2015 年度の海外学会等への派遣研究員 1 名を募集します。募集要領の概略は以下のとおりです。

海外学会等への派遣者募集要領

1. 目 的

自然環境と開発の問題については、我が国だけに限らず多くの国々で関心が持たれ、様々な研究と実践的な試みが行われてきている。応用生態工学を発展させるためには、こうした海外での活動に積極的に係わり参加することによって、情報を得ながら、人的交流を図ることが求められている。

応用生態工学会では、ここに会員から希望者を募り、「派遣研究員」を審査選考して、当該年度に海外で開催される応用生態工学に関連する学会・シンポジウム・国際会議等に派遣し、その内容を応用生態工学会会員に報告するものである。

2. 選 考

1) 資 格

- ① 応用生態工学会の正・学生会員であること（募集開始時点で会員でなくても、会員となることを条件として応募可能とする）
- ② 学生あるいは 35 歳未満の研究者・技術者

2) 派遣研究員の選考

- ① 学会としての総助成額を 20 万円とし、原則 1 名、場合によっては 2 名を選考する。
- ② 選考にあたっては国際交流委員会において書類審査を行い、候補者を選定した上で国際交流委員会にて決定し、幹事会および理事会に選考の経緯および結果を報告する。

3) 選考基準

- ① 派遣対象となる会議のテーマと本人のバックグラウンド（研究・調査経験）の整合性
- ② 派遣対象となる会議で何を学ぼうとしているのか、その焦点を明確に述べているか否か
- ③ 国際会議に出席して内容を把握できる能力
- ④ 応用生態工学への関心の度合い
- ⑤ 応用生態工学会での活動・参加状況・受賞歴

4) 派遣後の要件・手続き等

- ① 派遣研究員は、海外渡航の成果を指定の様式を用いて報告するものとする（報告内容は本学会のニュースレターおよび会誌“応用生態工学”に掲載します。なお、会誌“応用生態工学”では、「トピックス」に掲載します。）。
- ② 派遣終了後は、助成額の使途（使用費目と金額）について、決算報告するものとする。渡航先によっては、助成額の総額を上回る金額を使用した場合も考えられるが、その場合は、それらも含めて決算報告を行う。使用金額が助成額の上限を超えなかった場合には、余剰金を応用生態工学会に返金するものとする。
- ③ 何らかの理由により海外渡航と学会参加を中止する事態が生じた場合には、すみやかに応用生態工学会事務局にその理由などを報告するものとする。
- ④ 派遣研究員は、関連した研究や技術開発について、会誌“応用生態工学”もしくは英文誌“Landscape and Ecological Engineering”に論文を投稿することが推奨される。

3. 申 請 書

派遣希望者は、会員番号、氏名、所属、連絡先（住所・TEL・FAX・E-mail）、年齢、性別、専門分野、希望派遣学会等（開催会議等の名称、主催者名、開催月日、開催国・地名、会議等の目的・内容、現地見学会の有無と内容、参加申し込み期限、参加費、研究発表を行うか否か（その形式）、案内パン

フ等がありましたらそのコピーをお送りください), および派遣希望理由(上記の「3」選考基準」の各項目)を, A 4 計 2 枚以内(書式自由、ファイル形式は PDF)にまとめ、E-mail にて学会事務局(eces-manager@eces.j.com)に申し込みください。

なお、4 月以降に所属が変わる場合は、4 月以降の連絡先も付記してください。

4. 申 込 期 限

2015 年 3 月 31 日(火曜日) 事務局必着

5. 派遣決定時期

2015 年 4 月下旬までに決定

6. 派遣を推奨する国際学会およびシンポジウム

- 11th International Symposium on Ecohydraulics (ISE) <http://ise2016.org/>
- Annual Meeting of Society for Freshwater Science (SFS) <http://sfsannualmeeting.org/>
- 4th Biennial Symposium of the International Society for River Science (ISRS) <http://www.uwlax.edu/conted/isrs2015/>

その他, 以下の国際学会が主催する国際会議

- American Geophysical Union (AGU) <http://sites.agu.org/>
- European Geosciences Union (EGU) <http://www.egu.eu/>
- Society for Freshwater Science (SFS) <https://www.freshwater-science.org/>
- International Society for River Science (ISRS) <http://www.riversociety.org/>
- International Water Association (IWA) <http://www.iwahq.org/lnb/home.html>

なお、上記以外の国際学会やシンポジウムでも応募できます。

応用生態工学会 海外学会等への研究者・技術者の派遣 報告書

- ・ 報告内容は本学会のニュースレターおよび会誌（トピックスとして）に掲載します。
- ・ 本報告書に助成額の使途（使用費目と金額）についての決算報告を添付して下さい（様式自由）。

氏名：	会員番号：
所属：	
連絡先（住所・電話・E-mail）：	
派遣期間：	
派遣先（会議等の開催日、開催地、会議の名称、ホームページ）：	
1. 報告（概要） （次頁以降の報告内容の概要を <u>1200 字以内（テキストのみ）</u> でご記入下さい。この概要はニュースレターに掲載します。）	

2. 報告

(会議等の情報も含めた渡航の概要、会議等の主旨・内容、発表、参加者との交流、応用生態工学に関する海外での動向、その他の成果・意見などを 2500～3000 字程度でまとめて下さい。写真や図・表も挿入可能です。この報告内容は会誌にトピックスとして掲載します。よって、本学会の会員にとって有益と思われる情報はできるだけ詳しく記載して下さい。なお、本様式は必要に応じてページ数を変更して構いません。)

3. 本派遣制度に関する感想・コメント

(自由にご記入下さい。本制度をより良くするためのヒントとさせていただきます。)

4 応用生態工学会 第 19 回郡山大会開催案内

応用生態工学会2015年度の第19回大会について、第1回実行委員会を2015年1月14日に開催し、開催準備がスタートしました。

■大会実行委員長：占部城太郎 東北大学教授

■開催日・日程の概要

【開催日】2015 年 9 月 10 日(木)～9 月 13 日(日)

【日程案】

第1日目 9月10日(木)：エクスカーション①【三春ダムコース】(午前半日)
ポスター発表、自由集会

第2日目 9月11日(金)：口頭発表、自由集会、懇親会

第3日目 9月12日(土)：総会、公開シンポジウム

第4日目 9月13日(日)：エクスカーション②【相馬松川浦・仙台南部海岸コース】

※公開シンポジウム後に出発し、福島市周辺の温泉に宿泊、解散地は仙台空港・仙台駅

■公開シンポジウムのテーマ(案)

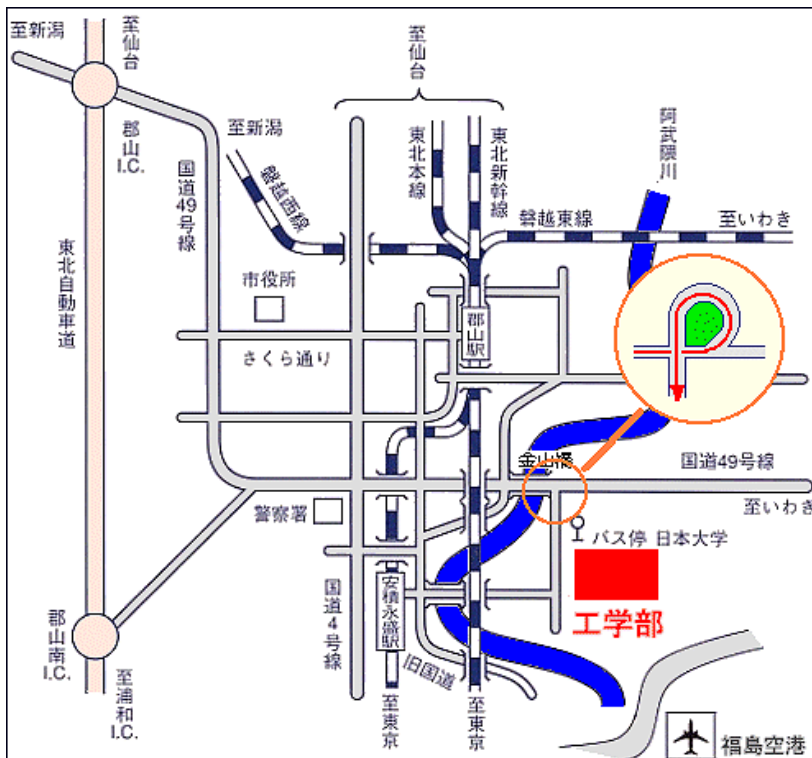
「生態系機能を活用した減災／防災／復興」

■会場

【開催場所】日本大学工学部キャンパス

【所在地】福島県郡山市田村町徳定字中河原 1

【交通】下図のとおり



■JR東北新幹線

東京駅→郡山駅(やまびこ号 80分)

郡山駅→日本大学下車(日大行バス 20分)

■JR東北本線

郡山駅→日本大学下車(日大行バス 20分)

5 第 7 回応用生態工学会フィールドシンポジウム in 熊本

全国フィールドシンポジウム第 7 回目となる今回は、初めて九州で開催します。
国内初の本格的なコンクリートダムの撤去として話題になった球磨川の荒瀬ダムとその下流を視察し、河川・沿岸環境の変化と土砂管理について考え議論したいと思います。
どうぞふるってご参加ください。

第 7 回 応用生態工学会 全国フィールドシンポジウム in 熊本～河川・沿岸環境の変化と土砂管理～

趣旨：

近年、世界各地で河川に流出する土砂を適正に制御する技術が求められています。土砂生産の多い日本では、防災・資源・環境のいずれの側面においても、流域スケールで総合的に土砂管理計画を立てる必要があります。そのためには、供給される土砂の量や質に対する河川、河口干潟、沿岸海域の生態系の応答を知り、土砂管理の環境目標を示すことが不可欠ですが、未だ定量的研究が少ないのが実状です。

今回のフィールドツアーでは、2012 年から撤去が始まった熊本県球磨川の荒瀬ダムから八代干潟までの現場を視察し、土砂供給にともなう下流河川や干潟環境の現状を多様な分野の視点で確認したいと思います。

また、シンポジウムでは、球磨川の荒瀬ダム撤去の事例に加えて、耳川の利水ダム群の改造事例、河口・沿岸域の環境再生事例等も交えて、応用生態工学的な観点から、河川・沿岸環境の変化と土砂管理のありかたについて議論をしたいと思います。

主催：応用生態工学会

共催（予定）：熊本大学 九州大学

後援：熊本県企業局・（一社）建設コンサルタンツ協会九州支部・（公社）日本技術士会九州本部

実施主体：応用生態工学会福岡

【1 日目：シンポジウム：6 月 12 日（金）】

■シンポジウム会場：熊本市国際交流会館（熊本市）

○13：00～16：20 講演

13：00 開会 司会：皆川朋子（熊本大学）

13：10～基調講演：流域の持続的管理を目指した貯水池土砂管理：角哲也（京都大学）

13：50～一般講演：

- 1) 荒瀬ダムの撤去と周辺環境の変化：熊本県企業局
- 2) 耳川水系ダム通砂に伴う河川環境変化の把握に向けた取組み（仮題）：九州電力（株）
- 3) 八代干潟の底質と生物の応答：鬼倉徳雄（九州大学）
- 4) 有明・八代海の環境特性と再生方策：滝川清（熊本大学）
- 5) 河川の土砂管理と自然再生：島谷幸宏（九州大学）

○16：20～17：20 パネルディスカッション

（講演者、コメンテーターを交えて）

17：25 閉会

コメンテーター：竹門康弘（京都大学）・島谷幸宏（九州大学）

○18：00～ 懇親会（会場：熊本市内）

【2 日目：フィールドツアー：6 月 13 日（土）】

■フィールド：球磨川流域（八代市）

9：00～ 熊本交通センター（バスツアー発着場）発

10：15～ 新八代駅発

10：45～ 荒瀬ダム等視察

11：50～ 昼食

13：10～ 球磨川河口干潟等生物観察

15：10～ 遥拝堰下流視察

15：50～ 新八代駅着

16：50～ 熊本空港着

17：40～ 熊本交通センター着

※フィールドツアー行程は予定であり、変更が生じる可能性があります

■参加費（予定）：

シンポジウム：学会員 1,500 円、非会員 2,000 円、学生 1,000 円程度（資料代込）

フィールドツアー：バスとお弁当で 一律 3,000 円程度

懇親会費：一律 5,000 円程度

■定員：シンポジウム：230 名 フィールドツアー：40 名

■参加申込方法：下記事項を明記の上、E メールでお申込み下さい。

- ・所属
- ・氏名・連絡先
- ・応用生態工学会会員（会員番号）・非会員一般・非会員学生
- ・参加内容（シンポジウム・フィールドツアー・懇親会）

※フィールドツアーでは泥干潟を観察しますので、汚れても良い靴・服装をご準備下さい

【申込み〆切】

フィールドツアー：6 月 5 日（火）

シンポジウム：6 月 10 日（水）

■申込・お問い合わせ先：応用生態工学会福岡事務局 酒井奈美

E メール：n-sakai@wjec.co.jp

Tel:092-781-2625（西日本技術開発(株)環境部内）

※本シンポジウムは（一社）建設コンサルタンツ協会の継続教育(CPD)プログラムとして認定予定です。

第7回 応用生態工学会全国フィールドシンポジウムin熊本 ～河川・沿岸環境の変化と土砂管理～

主催: 応用生態工学会
共催(予定): 熊本大学 九州大学
後援: 熊本県企業局
(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部
(公社)日本技術士会九州本部
実施主体: 応用生態工学会福岡

1日目:シンポジウム:6月12日(金)

シンポジウム会場: 熊本市国際交流会館(熊本市)

- 13:00～16:20 講演
13:00 開会 司会: 岩川朋子(熊本大学)
13:10 基調講演: 流域の持続的管理を目指した
貯水池土砂管理
角哲也(京都大学)
13:50 荒瀬ダムの撤去と周辺環境の変化
熊本県企業局
14:10 耳川水系ダム通砂に伴う河川環境変化
の把握に向けた取り組み(仮題)
九州電力(株)
～休憩～
14:45 八代干潟の底質と生物の応答
鬼倉徳雄(九州大学)
15:15 有明・八代海の環境特性と再生方策
滝川清(熊本大学)
15:45 河川の土砂管理と自然再生
島谷幸宏(九州大学)
～休憩～
■16:20～17:20 パネルディスカッション
(講演者、コメンテーターを交えて)
コメンテーター: 竹門康弘(京都大学)
・島谷幸宏(九州大学)
17:25 閉会
■18:00～ 懇親会(会場: 熊本市内)

2日目:フィールドツアー:6月13日(土)

フィールド: 球磨川流域(八代市)

- 9:00～ 熊本交通センター(バスツアー発着場)発
10:15～ 新八代駅発
10:45～ 荒瀬ダム等視察
11:50～ 昼食
13:10～ 球磨川河口干潟等生物観察
15:10～ 遥拝堰下流視察
15:50～ 新八代駅着
16:50～ 熊本空港着
17:40～ 熊本交通センター着
※フィールドツアー行程は予定であり、変更が生じる可能性があります

応用生態工学会では、現地視察によって問題意識や現場のニーズを共有し、学会が取り組むべき研究課題を発掘することを目的に各地で“フィールドシンポジウム”を開催しています。

7回目となる今回は、初めて九州で開催します。

近年、世界各地で河川に流出する土砂を適正に制御する技術が求められています。土砂生産の多い日本では、防災・資源・環境のいずれの側面においても、流域スケールで総合的に土砂管理計画を立てる必要があります。

そのためには、供給される土砂の量や質に対する河川、河口干潟、沿岸海域の生態系の応答を知り、土砂管理の環境目標を示すことが不可欠ですが、未だ定量的研究が少ないのが実状です。

今回のフィールドツアーでは、2012年から撤去が始まった熊本県球磨川の荒瀬ダムから八代干潟までの現場を視察し、土砂供給にともなう下流河川や干潟環境の現状を多様な分野の視点で確認したいと思います。

また、シンポジウムでは、球磨川の荒瀬ダム撤去の事例に加えて、耳川の利水ダム群の改造事例、河口・沿岸域の環境再生事例等も交えて、応用生態工学的な観点から河川・沿岸環境の変化と土砂管理のありかたについて議論をしたいと思います。

■参加費: シンポジウム: 学会員1,500円、非会員2,000円、学生1,000円程度を予定しています。(資料代込)

フィールドツアー: バスとお弁当で 3,000円程 懇親会費: 5,000円程を予定しています。

■参加申込先: 所属・氏名・連絡先・会員(会員番号)or非会員参加内容(シンポジウム・フィールドツアー・懇親会)を明記し、下記までEメールでn-sakai@wjec.co.jp宛にお申し込みください。

■定員: シンポジウム: 230名、フィールドツアー: 40名(先着順)

■お申込み・お問合せ先: 応用生態工学会フィールドシンポジウムin熊本事務局
応用生態工学会福岡 酒井奈美(西日本技術開発(株)環境部内)
Eメール: n-sakai@wjec.co.jp Tel: 092-781-2625

【申込み〆切】
フィールドツアー: 6月5日(火)
シンポジウム: 6月10日(水)

※本シンポジウムは(一社)建設コンサルタンツ協会の継続教育(CPD)プログラムとして認定予定

シンポジウム会場案内

【熊本市国際交流会館 ホール(6・7階)】



所在地: 熊本市中央区花畑町4番18号

電話番号: 096-359-2020

HP: <http://www.kumamoto-if.or.jp/kcic/default.asp>

【JR熊本駅より】

- ◆ 熊本市営電車で約10分、花畑町下車、徒歩約3分
- ◆ 路線バスで約10分、交通センター下車、徒歩約3分
- ◆ タクシーで約10分

【熊本空港より】

- ◆ 車で約45分
- ◆ 九州産交バスで約45分、交通センター下車、徒歩約3分

【九州自動車道】

- ◆ 熊本インターチェンジより車で約30分
- ◆ 益城熊本空港インターチェンジより車で約30分

【熊本交通センターより】

フィールドツアー集合場所

【熊本交通センター(貸切バスツアー発着ホーム(ボウリング場前))】

※前日から宿泊される方は、熊本バスセンター周辺がホテルも多く便利です。



所在地: 熊本県熊本市中央区桜町3-10

電話番号: 096-326-8818

HP: <http://www.kyusanko.co.jp/parking/peripheral.php#bustour>



【JR熊本駅より】

- ◆ 路線バス(所要時間約10分)
- ◆ タクシー(所要時間約10分)
- ◆ 市電(所要時間約10分) 辛島町下車・徒歩約2分

【熊本空港より】

- ◆ 空港連絡リムジンバス(所要時間約50分)
- ◆ たかもり号(所要時間約50分)

参加費・受付人数

	定員	応募〆切	参加費		
			会員・賛助会員	非会員	学生
フィールドツアー	40人	6月5日	一律¥3,000		
シンポジウム	230人	6月10日	¥1,500	¥2,000	¥1,000
懇親会	-	6月10日	一律¥5,000		

参加ご希望の方は下記内容を記載の上、Eメールにてお申込み下さい。

氏名:

所属:

種別: 応用生態工学会会員(会員番号)・非会員一般・非会員学生

Email:

電話番号:

参加内容: シンポジウム(6月12日)・懇親会(6月12日)・フィールドツアー(6月13日)

※フィールドツアーでは泥干潟を観察しますので、汚れても良い靴・服装をご準備下さい

申込先: 応用生態工学会福岡(事務局: 酒井) n-sakai@wjec.co.jp Tel: 092-781-2625

※ご連絡を頂きました個人情報は、厳正に管理し、シンポジウム関連のお知らせおよび応用生態工学会の活動案内以外には使用いたしません。

6 理事会、幹事会報告

6-1 第 74 回理事会、第 75 回理事会（メール会議）報告

第 74 回理事会は、2015 年 2 月 3 日、千代田区麹町の弘済会館で開催された。

出席者は以下の通り。

谷田会長、中村副会長、浅枝理事、久保田理事、甲村理事、島崎理事、成田理事、渡辺（綱）理事、
渡邊（康）理事

西監事、木内監事

事務局：藤田幹事長、小川事務局長

6-1-1 報告事項

○第 73 回理事会報告・第 62 回幹事会報告

2014 年 9 月 20 日開催の前回第 73 回理事会、2014 年 12 月 17 日開催の第 63 回幹事会の審議内容が報告された。

なお、第 63 回幹事会での審議結果は、今回の第 74 回理事会の議題に整理され提出されている。

○会誌編集委員会報告

西編集委員会副委員長（事務担当）から、J-STAGE 投稿審査システム有料化問題は、年間 3 万円の負担で継続利用が可能になったこと、この件は投稿論文数が少ないことに端を発しており、投稿数の増加策を検討中であることが報告された。

○テキスト刊行委員会報告

かねて作業中であったテキストが 6 月発刊の運びとなり、技報堂出版との出版契約が終わったことが報告された。また、シリーズ第 2 号の準備に入ることが報告された。

○普及・連携委員会報告

2014 年度の地域イベント助成費として追加計上された 30 万円の配分について検討が進められていることが報告された。

○国際交流委員会報告

韓国応用生態工学会との交流に向けた MOU（Memorandum of Understanding）の締結の進捗状況について、韓国側から回答が返ってきていないことが報告された。また、2015 年度内に国際シンポジウムを計画していることが報告された。

○ICLEE 状況報告

2015 年/2016 年の ICLEE 運営体制、LEE 編集体制について報告があった。

- ・ 2015 年/2016 年の ICLEE 運営体制は次のとおり。

President : Kim Namchoon 教授、Vice-president : 柴田昌三教授 (京大、日本緑化工学会会長)

Secretary-general : 日置佳之教授 (鳥取大)

- ・ 2015 年/2016 年の LEE 編集体制として、応用生態工学会から次の会員が LEE の編集に参画される。

- ① Ecological Engineering 分野の Editor-in-Chief に谷田一三会長が就任。

[Landscape Ecology 分野と Landscape Planning 分野の Editor-in-Chief には、夏原由博教授 (名大、日本景観生態学会) と Dongkun Lee 教授 (Seoul National University, KILA) が就任。]

- ② 3 名の Editorial Auditor が編集事務 (投稿原稿の処理、アクセプト後の処理、出版の際の処理) を分担して担当。

応用生態工学会から、梁政寛氏 (東京工業大学大学院博士後期課程) が就任。

[他の 2 名は、日本景観生態学会、韓国から各 1 名。]

- ③ Ecological Engineering 分野の Editor として、次の 5 名の会員が就任。

田中規夫先生 (埼玉大学大学院理工学研究科 教授)

平林公男先生 (信州大学繊維学部 教授)

吉村千洋先生 (東京工業大学大学院理工学研究科 准教授)

西廣 淳先生 (東邦大学理学部 准教授)

戸田祐嗣先生 (名古屋大学大学院工学研究科 准教授)

○情報サービス委員会報告

学会サーバーへの不正アクセスに対する対応の報告と、リニューアルされたホームページの紹介があった。

ホームページの英文ページについて、埼玉大学浅枝先生の研究室の留学生にご協力いただき、作成していくことが報告された。

○事務局改善ワーキンググループ報告

久保田理事 (事務局改善WG委員長) から、学会財政の安定化のために検討を進めている賛助会員の増加に向けた方策について報告があった。

○河川砂防技術基準 (調査編) をもとにした意見交換会 報告

昨年 9 月の全国大会中に開催した第 1 回の意見交換会の状況について報告があった。

意見交換会は、応用生態工学会、土木学会水工学委員会環境水理部会、国土交通省国土技術政策総合研究所の三者が参画。応用生態工学会からは、水源地環境センター中村技術参与、徳島大学河口准教授、名古屋大学田代准教授、東邦大学西廣准教授が出席。意見交換会は傍聴可能として開催された。

第 2 回は本年 3 月 12 日の土木学会水工学講演会時、第 3 回は本年 9 月の応用生態工学会大会時に開催が決まっている。

○第 18 回東京大会 優秀発表賞 運営報告

一昨年の全国大会から、研究活動奨励班により優秀発表賞表彰規程を策定し、優秀発表賞の運営を行ってきた。2 回の大会での実績をもとに運営方法を改善するとともに、マニュアル等の整備により円滑な運営の確保を図っていく。

○次期中期計画の策定作業状況報告

- ・次期（第 4 次）の中期計画の策定作業状況、現時点での第 4 次中期計画の素案について報告があった。
- ・第 4 次中期計画の期間については 2015 年度～2018 年度の 4 ヶ年として策定を進めている。
また、中期計画実行のための特別会計は組まず、一般会計の各年度予算案において必要な金額を積み上げることを検討している。
- ・第 4 次中期計画の構成としては、4 つの大きな骨子を定め、そのもとに活動内容（アクションプラン）を示すものとしている。
- ・今後の予定としては、現時点での素案について理事会の意見を伺い、引き続き、各委員会に対する意見照会などを行って成案を作成し、本年 5 月の次回理事会において成案について審議、本年 9 月の第 19 回総会において第 4 次中期計画を報告する。
- ・現時点での第 4 次中期計画の素案に対して、次の意見があった。
 - ① 活動内容（アクションプラン）として多くの項目が掲げられており、必ず実現する項目など、重点項目を定める必要がある。
 - ② 活動内容（アクションプラン）の実施主体については、特定の委員会等のセクションに集中しないように配慮する必要がある
 - ③ 地球温暖化への適応策に関する動向として、本年夏頃を目途に、政府全体の適応計画が閣議決定される予定となっている。
また、素案では、新たに課題となった事項として地球温暖化の影響の顕在化が挙げられているが、具体の活動内容（アクションプラン）として、地球温暖化を巡る課題への取り組みが掲げられていない。
応用生態工学会として、地球温暖化への適応策が採られることにより生態系にどのような影響があるのか、生態系を守るためにどのような取り組みを行うのかなど、地球温暖化を巡る課題についても取り組んでいくことが必要である。
 - ④ 活動内容（アクションプラン）において、アジア地域への貢献活動が挙げられているが、シンポジウムやセッションの開催情報などが海外、アジア、国内留学生などにあまり知られてない。これらの情報が流通すれば、アジアへの展開の助けになる。国際交流委員会のテーマではないか。留学生対策として学会として取り組むテーマでもある。
 - ⑤ アジアの留学生の興味は、従来の土木技術に加えて、環境面にも広がっている。留学経験が帰国後に繋がる施策が必要。応用生態工学会には研究者、民間、行政が参加している。これを活かした留学生ネットワーク、日本の研究、技術の海外展開を戦略的に考えたい。
 - ⑥ 環境行政情報の提供と活用についても、活動内容（アクションプラン）に取り込んでいくようにしたい。

6-1-2 審議事項

1. 2015 年度海外学会等への派遣者募集要領の変更

- ・募集要領の変更は、この制度をより広く活用していただくため、改定を提案したもの。
- ・審議では一部修正の上、提案は了承された。(2015 年度海外学会等への派遣者募集要領は、本ニュースレターと学会ホームページに掲載している。)

2. 次期役員募集・推薦委員会の委員の指名

- ・2015 年度は学会役員の改選期と定められている。役員の改選に向け、次期役員募集・推薦委員会の委員の指名について審議が行われたが、継続審議とし、再度、理事会（メール会議）に諮ることとなった。
- ・第 74 回理事会の後、第 75 回理事会（メール会議、2015 年 2 月 6 日～12 日 17 時）を開催し、次期役員募集・推薦委員会の委員についての提案が了承され、以下の委員が決定した。

第 10 期役員募集・推薦委員会の委員

委員長	応用生態工学会会長	谷田一三
委員	応用生態工学会前会長	近藤 徹
委員	応用生態工学会前前会長	山岸 哲

- ・今後の役員改選スケジュールは、次期役員募集・推薦委員会において 6 月に次期役員の立候補者の募集を行い、候補者を取りまとめ、例年 8 月に開催する理事会に推薦、審議し、9 月の総会で決定する運びとなる。

3. 大規模災害に対する対応の考え方

- ・第 62 回幹事会・第 73 回理事会（2014 年 9 月 20 日開催）において、「大規模災害が生じた際に迅速に情報収集・現地調査を行い、適切な提言活動をするための体制の整備」の必要性が議論された。
- ・これに対して、特命班 1 の理事・幹事、副幹事長により検討を進めており、次の項目からなる「災害対応の考え方」が取りまとめられた。

【災害対応の方法】

1. 災害発生から提言・フォローアップまでの手順
 2. 具体的な調査方法、内容、整理方法
 3. 対応すべき災害の規模・現象
 4. 行政との連携（初動、成果を活かす方策）
 5. 他学会との連携（カバーしきれない分野）
 6. 成果・提言の発信
 7. 経費
- ・理事会では、現時点で取りまとめられた「災害対応の考え方」について意見交換が行われ、これらも参考にして、応用生態工学会としての調査のあり方、実行動を可能とする方策等について、引き続き検討を進めることとした。

7 年間行事予定

2014 年度行事結果と予定

月 日	記 事
4. 1	2014 年度（平成 26 年度）開始
2. 21～5. 20	海外学会派遣研究者の公募、再公募
4. 16	応用生態工学会東京大会第 2 回実行委員会（首都大学東京 大沢キャンパス）
4. 23	事務局改善ワーキンググループ会議（麹町：応用生態工学会事務所）
4. 25～4. 30	第 71 回理事会（メール会議）
5. 29	ニュースレター 64 号 発行
6. 9～18	国際交流委員会（メール会議）
6. 13～14	第 6 回フィールドシンポジウム in 高知
6. 14	普及・連携委員会（高知市）
6. 14	<後援> シリーズ「大槌学の地平から考える復興」シンポジウム（大槌町）
6. 19	テキスト刊行委員会（麹町：応用生態工学会事務所）
6. 21	第 60 回幹事会（麹町：応用生態工学会事務所）
6. 21	会誌編集委員会（麹町：応用生態工学会事務所）
6. 23	海外学会派遣研究者の決定、通知
7. 23	第 4 回遠賀川中島自然再生研究会（遠賀川水辺館 直方市）
7. 25	応用生態工学会東京大会第 3 回実行委員会（麹町：応用生態工学会事務所）
8. 8	ニュースレター 65 号 発行
8. 8～19	第 61 回幹事会（メール会議）
8. 22	第 72 回理事会（麹町：弘済会館）
8. 28	平成 26 年度応用生態工学札幌セミナー 「本来の川を取り戻すために…その 9, “川のリサイジング”」
9. 18～21	応用生態工学会東京大会（首都大学東京 南大沢キャンパス 12 号館） 9 月 18 日（木）：研究発表（ポスター）、分科会、自由集会 9 月 19 日（金）：研究発表（口頭）、分科会、自由集会、懇親会 9 月 20 日（土）：午前：役員会・総会等、午後：公開シンポジウム 9 月 21 日（日）：エクスカーショ

9. 20	第 62 回幹事会、第 73 回理事会（首都大学東京 南大沢キャンパス 12 号館）
9. 18～20	大会期間中に、普及・連携委員会等の各委員会を開催
10. 24～25	第 13 回北信越現地ワークショップ in 長野 10 月 24 日（金）：ワークショップ（講演及び報告、ポスターセッション等） 10 月 25 日（土）：現地見学会 テーマ 『上下流の連続性を考える』
10. 30	会誌「応用生態工学」Vol. 17-1 発行
11. 14	第 2 回北信越事例発表会（富山県立大学 射水市）
11. 19	事務局改善ワーキンググループ会議（麹町：応用生態工学会事務所）
12. 17	第 63 回幹事会（麹町：応用生態工学会事務所）
12. 17	事務局改善ワーキンググループ会議（麹町：応用生態工学会事務所）
12. 22	ニュースレター66 号 発行
2. 3	第 74 回理事会（麹町：弘済会館）
2. 6～12	第 75 回理事会（メール会議）
2. 9～3. 31	2015 年度海外学会等派遣者の募集
2. 20	ニュースレター67 号 発行
2	会誌「応用生態工学」Vol. 17-2 発行予定
2014 年度終了	

2015 年度行事予定

月 日	記 事
4. 1	2015 年度（平成 27 年度）開始
4	会誌編集委員会
4	将来構想委員会
4. 下旬	2015 年度海外学会等派遣者の選考決定、通知
5	第 64 回幹事会
5	第 76 回理事会
5	ニュースレター68 号 発行
6. 1～30	次期役員候補募集
6. 12～13	第 7 回応用生態工学会フィールドシンポジウム in 熊本（熊本市・球磨川流域）
時期未定	遠賀川中島自然再生研究会

6	会誌「応用生態工学」Vol. 18 -1 発行予定
6	第 65 回幹事会 (麹町：応用生態工学会事務所)
8	ニュースレター69号 発行
8	第 77 回理事会
8 月下旬	応用生態工学会札幌セミナー (札幌市豊平川さけ科学館を予定) 「みんなで手づくり模型実験、iRIC で検証してみよう」(仮)
9. 10～13	応用生態工学会郡山大会 (日本大学工学部キャンパス) 9 月 10 日 (木) : エクスカーション①【三春ダムコース】(午前半日) 研究発表 (ポスター) 、自由集会 9 月 11 日 (金) : 研究発表 (口頭) 、自由集会、懇親会 9 月 12 日 (土) : 午前：役員会・総会等、午後：公開シンポジウム 9 月 13 日 (日) : エクスカーション②【相馬松川浦・仙台南部海岸コース】
9. 12	第 78 回理事会、第 66 回幹事会 (日本大学工学部キャンパス)
9. 10～12	大会期間中に、普及・連携、国際交流等の各委員会を開催
時期未定	国際シンポジウム 「グリーンインフラとしての河川の理解と管理」 (仮題)
11	応用生態工学会福井 勉強会 (ミニ現地ワークショップ 嶺南)
12	会誌「応用生態工学」Vol. 18-2 発行予定
12	第 67 回幹事会 (麹町：応用生態工学会事務所)
12	ニュースレター70号 発行
2	第 79 回理事会
2	ニュースレター71号 発行
2	2016 年度海外学会等派遣者の募集
2015 年度終了	

8 事務局より

このニュースレターでは、2015 年度から始まる中期計画の策定について議論が始まっていることをお知らせしました。産学官で構成されている応用生態工学会の特徴が今後 4 年間の活動計画に反映されるよう、多くの会員の参加が待たれます。

8-1 会員情報を更新してください

年度初めは、会員の皆様にとって、卒業や転勤、部内異動など、会員情報の変化が多い時期です。

せっかく会費をお支払いいただいておりますが、アドレスエラーや転居先不明でニュースレターや学会誌が戻ってくるケースがかなりの数があり、再送をあきらめるケースもあります。メールアドレスと住所、電話は必須です。メールアドレス等の会員情報が変更となった場合には、下記の学会ホームページからお知らせください。

● 会員登録情報変更連絡フォーム

<http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

8-2 事務局への連絡方法

事務局へのお問い合わせや連絡は、まずはメールをお願いします。記録が残り、間違いが少なくなりますので、電話より有効です。必要になれば、学会から電話でもご連絡いたします。

学会事務局のアドレスは、e-mail : eces-manager@ecesj.com です。

[2015年 2月 15日現在会員数]

名誉会員	:	6名
正会員	:	993名
学生会員	:	121名
合計	:	1120名

LE 購読者数

正会員	:	95名
学生会員	:	1名
合計	:	96名

賛助会員 : 32法人 (47口)